

第3次所沢市定員管理計画 概要

1 定員管理計画

将来的な行政需要や業務量を見込み、業務を遂行するために**必要な職員数を定める**もの。
 持続可能な行財政運営の実現のため、計画を基礎として、各年度における職員採用数を決定し、安定的に質の高い行政サービスを提供する。

対象 一般職の常勤職員 **次期計画期間** R7年度～R10年度

2 これまでの振り返り

(1) 計画策定の状況

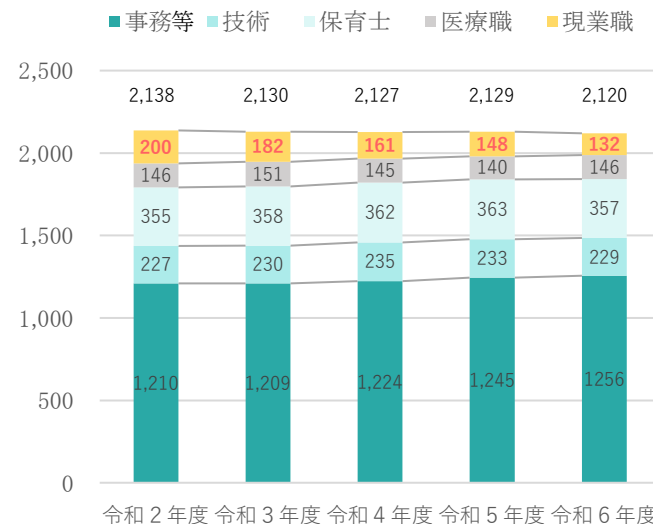
計画名	計画期間	基本的な考え方
第1次所沢市定員適正化計画	平成12年度～平成16年度	増員の抑制
第2次所沢市定員適正化計画	平成17年度～平成26年度	簡素で効率的な行政運営の実現
所沢市定員管理計画	平成27年度～令和元年度	職員規模の維持
第2次所沢市定員管理計画	令和2年度～令和6年度	業務量と職種ごとに適切なバランスを維持

(2) 直近の計画の振り返り（第2次所沢市定員管理計画期間）

現業職退職者不補充方針の継続や民間委託の導入などにより、
 期間開始前から計**22人減少**

	R2	R3	R4	R5	R6	計
計画上の職員数 (a)	2,138	2,136	2,126	2,122	2,117	-
実職員数 (b)	2,138	2,130	2,127	2,129	2,120	-
前年比	▲4	▲8	▲3	2	▲9	▲22
差 (b-a)	0	▲6	1	7	3	5

● 職種別職員数の推移



現業職：
 現業職退職者不補充方針により大幅に**減少**

行政職（事務等・技術・保育士）：
 新たな政策の実施、事務事業の増大など*により**増加**

*デジタル戦略業務の推進
 子ども子育て支援の拡大 等

3 本市の職員数の状況

(1) 人口1万人あたりの職員数（R4.4.1時点）
 普通会計部門で53.69人であり、施行時特例市の中で3番目に少ない。
 （施行時特例市平均64.88人）

(2) 類似団体別職員数※
 類似団体の平均値と比較すると、普通会計部門において365人少ない
 →H25年に広域化した消防部門が少ないことが大きな要因である。
 消防部門を除くと、普通会計部門で42人少ない。

※「あるべき水準」を示す指標ではなく、適切な定員管理のために参考として活用する指標

4 考慮すべき要素

外的要素	生産年齢人口の減少、行政需要の増加、多様化、法改正、基準変更
内的要素	中核市移行、DX推進、業務改善、効率化、組織合理化、財政状況、既存事務事業の見直し、担い手の最適化、公民連携、働き方改革

5 定員管理の考え方・方針

これまでの振り返り

本市の職員数の状況
 類似団体別職員数平均値と比較すると増員の余地あり

考慮すべき要素
 行政需要の増加・多様化
 DX推進のための転換期等

定員管理の基本的な考え方

本市の財政状況などを踏まえつつ、自治体として担うべき機能を継続できるように、
今後の業務再構築・変革を前提とした人員体制を整える。

定員管理の方針

1. 後期基本計画に掲げる諸施策の着実な進行
2. 中核市移行を見据えた計画的な対応
3. 行政のデジタル化を踏まえた定員管理
4. 業務の担い手の最適化
5. 働きやすい環境の整備
6. 財政状況を踏まえた定員管理

年度別計画値※	R7	R8	R9	R10	R11	計
職員数	2,135	2,140	2,153	2,157	2,160	—
増減数	—	5	13	4	3	25

※中核市として新たに担う行政サービスを実施するために必要となる職員数は含まれていません。